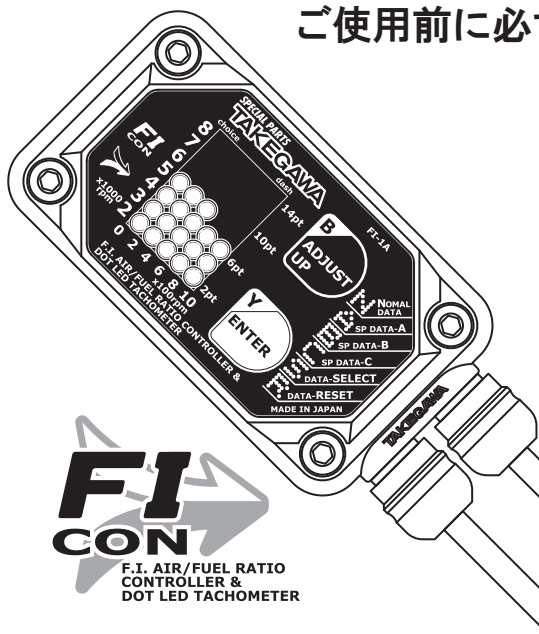


ご使用前に必ず説明書をご覧ください。



## ① まえがき

## ② ご使用にあたっての注意点

## ③ キット内容

## ④ 作動の流れ

## ⑤-1 設定方法一覧

### ⑤-2 セットアップ画面

### ⑤-3 セレクト画面

### ⑤-4 リセット画面

## ⑥ 参考データ

## ⑦ 配線

## ⑧ トラブル

| 適合車種       | 型式        | フレームNo.       |
|------------|-----------|---------------|
| V125S      | UZ125SLO  | CF4MA-100001~ |
| V125Sベアシック | UZ125SULO |               |

※本製品は、V125S以前のモデル（UZ125K5/GK5/K6/GK6/K7/GK7/K9/GK9）には対応しません。

本書では[SLOモデル]と呼びます



## 警告

この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 本製品は純正ECMの噴射回路に割り込ませて噴射時間を延長する製品です。構造上、万が一のトラブル時(本製品の故障や配線の不具合)には燃料噴射がストップしてしまう可能性があります。
- 本製品に入っている3種類の改造車用参考データは、弊社のテストで使用していたデータです。あくまで参考データで、必ずセッティングが合っているかをお客様のバイクでも確認して下さい。参考データにより、エンジンの故障に関して保証するものではありません。弊社テスト車両と違う改造をしている場合は、再セッティングの必要があります。また、各 부품の個体差、外的要因(気温など)でセッティングが異なる場合もあります。

以上の事を予めご理解のうえで使用して下さい。

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16 株式会社スペシャルパーツ武川  
(TEL)0721-25-1357(代) (FAX)0721-24-5059  
(お問合せ専用ダイヤル)0721-25-8857  
www.takegawa.co.jp

## ① まえがき

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。  
◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

◎製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。

◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

### ▲注意

この表示を無視した取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害の発生が想定される内容を示しています。

- ・弊社製S-Stageキットを組み込まれた場合、一般公道の走行は出来ません。(運転者本人が罰せられる対象になります。)
- ・作業を行う際は、必ず冷間時(エンジンおよびマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。(部品の脱落の原因となります。)

### ▲警告

この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ・エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- ・作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。(そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。)
- ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行ってください。

◎クレームについては、製品に欠陥があると認められた製品に対しては、製品お買い上げ後3ヶ月以内を限度として、修理又は、交換させて頂きます。ただし交換工費等の一切の費用は対象となりません。正しい取り付け、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。

## ② ご使用にあたっての注意点

社外品のH.I.D.キットはバラスト/インバーター(電圧変換装置)からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る場合がほとんどで、故障の原因となりますので使用しないで下さい。社外品の点火装置(イグニッションコイルやプラグコード)は点火電圧のアップに伴う、悪影響ノイズの増大により故障の原因となりますので使用しないで下さい。社外品の発電装置は充電力の不足により、バッテリー電圧の低下、制御電圧の不具合により故障の原因となりますので使用しないで下さい。

◎本製品のボディーは樹脂製です。風化を防ぐ為に長期、野外にバイクを置く場合はカバー等をかけてください。炎天下の中など、過酷な条件下で長期放置しますと、樹脂やゴム製部品の劣化や変形の原因となります。

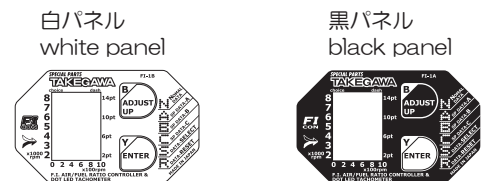
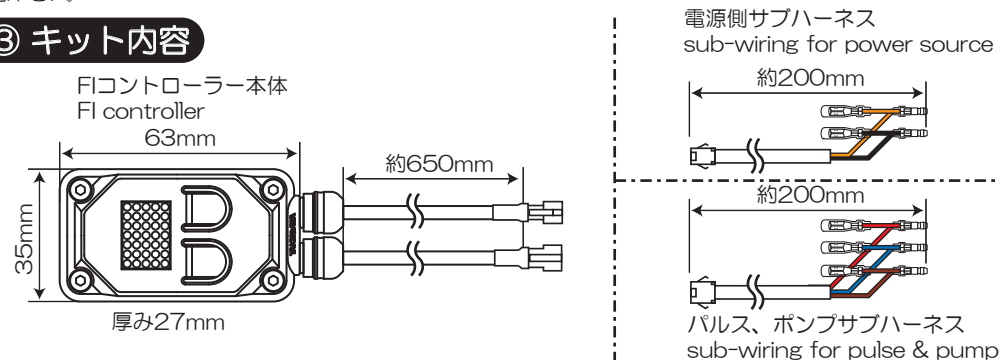
◎本製品は完全防水ではありません。防滴構造ですので雨などの通常の水濡れ程度では内部に水は入りませんが、完全防水ではありませんので水の中に浸すなどすると水が浸入してしまう可能性があります。洗車時は注意して下さい。本体に水が入ってしまった場合は直ちに使用を止めて下さい。また、湿度が高い時、急激な温度変化があった場合などに本体が湿気を吸い込み、画面に曇りが発生する事があります。

◎絶対に分解しないで下さい。大変危険ですので分解や改造を行わないで下さい。また、お客様で分解された場合、製品修理をお受けする事も出来なくなってしまう事です。

◎激しい衝撃を与えないで下さい。オフロード走行やジャンプなど、メーターに強い衝撃を与える行為は行わないで下さい。衝撃によっては内部部品の欠落、ボディーの損傷の恐れがあります。

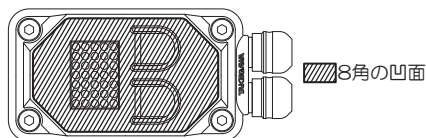
◎お手入れについて  
頑固な汚れがある場合は水に少量の中性洗剤を溶かし、ゆっくり丁寧に汚れを落として下さい。  
揮発性のあるもの(シンナー・アルコールなど)やコンパウンドで掃除しますと、パネル等が曇ってしまいますのでご注意下さい。

## ③ キット内容



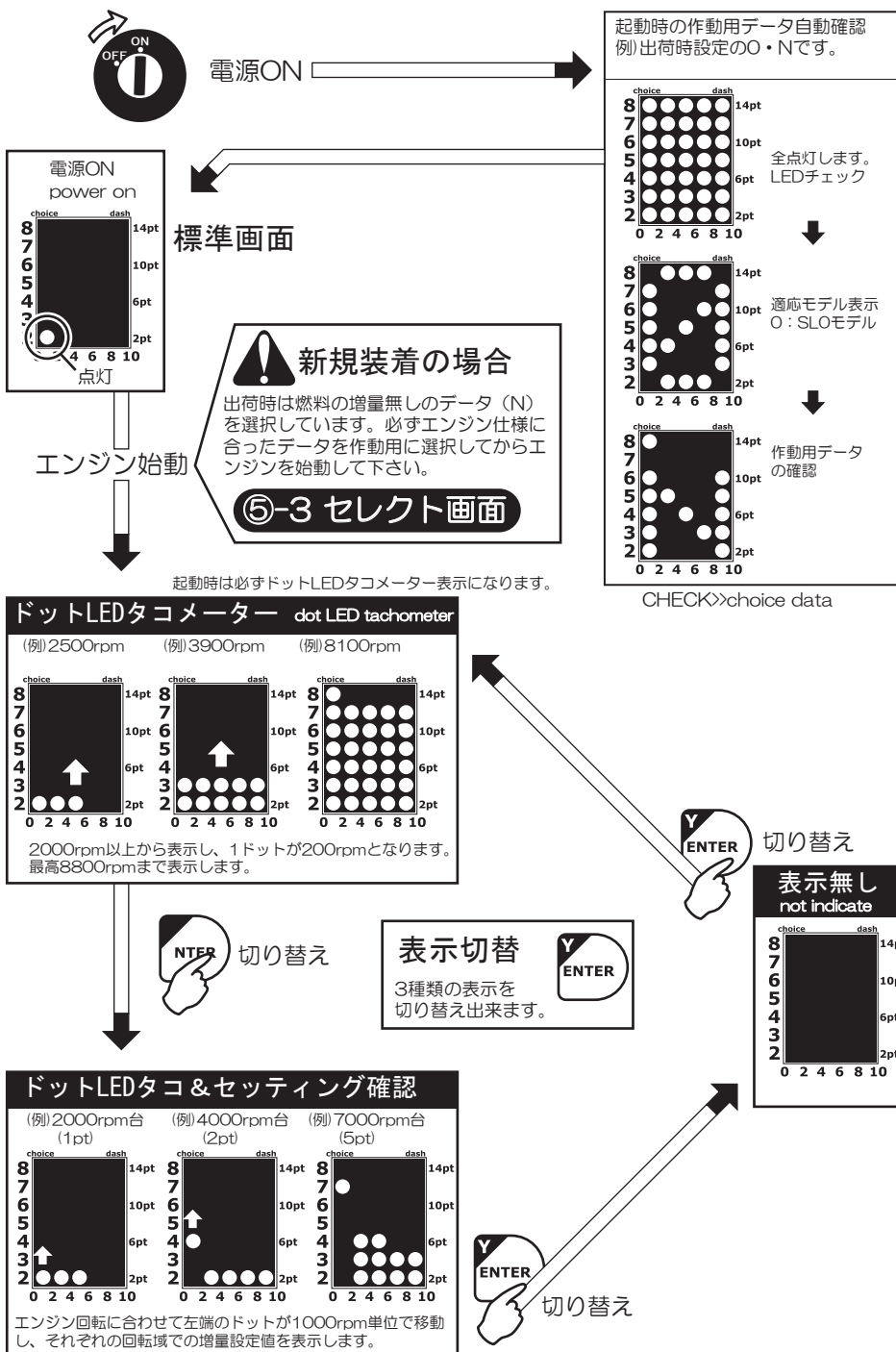
パネルは装着場所やスタイルに合わせてお選び下さい。

## パネル貼り付け注意点



パネルは8角の凹面内に正確に貼り付けて下さい。ずれて淵部分にパネルが乗り上げると、接着不具合によりその隙間から雨水等が内部に浸入し、故障してしまいます。パネルは枠のサイズよりも若干小さく製作しています。

## ④ 作動の流れ



## ⑤-1 設定方法一覧



**注意**

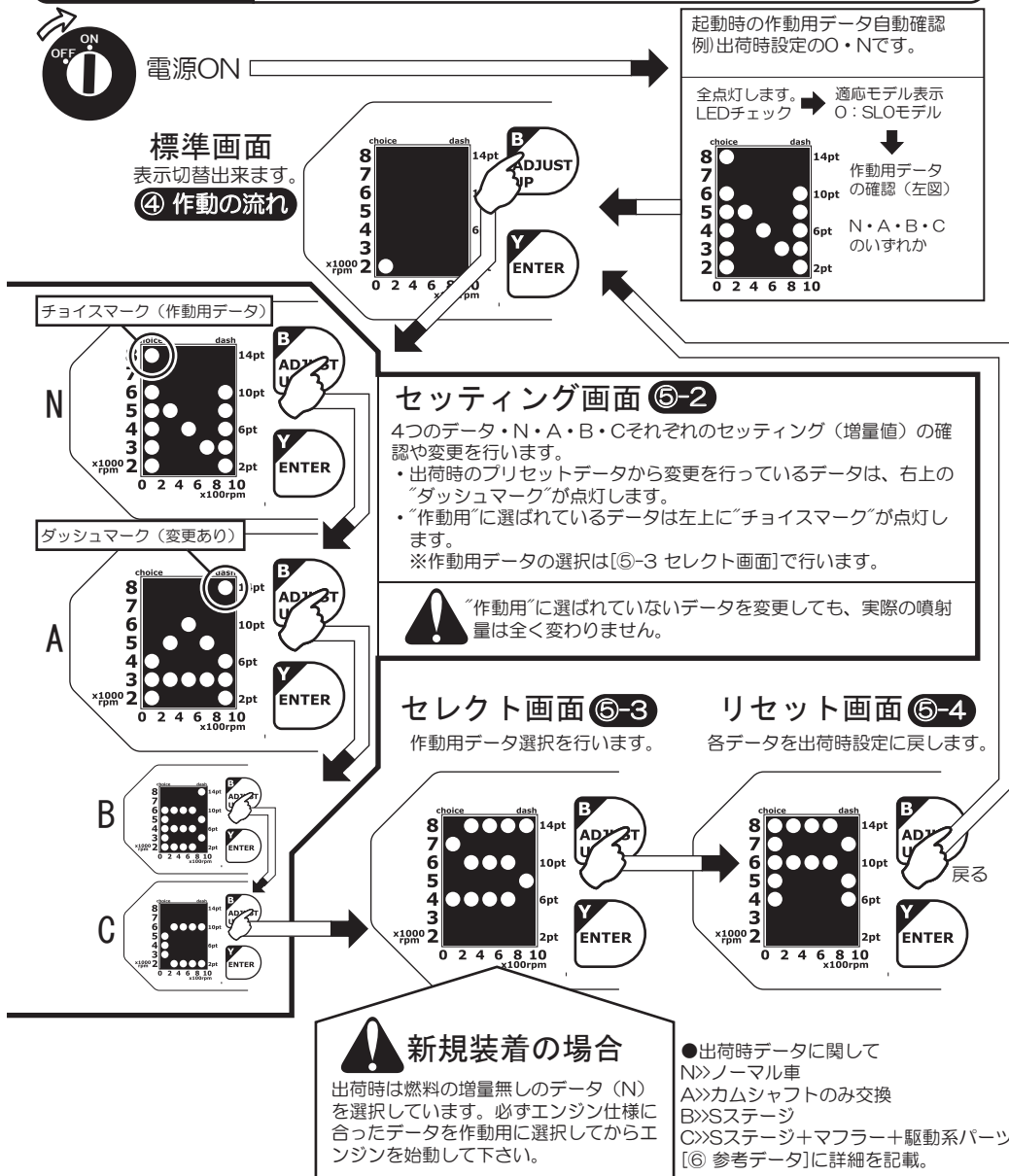
各種設定の変更中に電源をOFFにしないで下さい。  
データ更新エラーが発生し、正しくデータが書き込まれない場合があります。  
最悪の場合、メモリー破壊に繋がりデータを記録する事が出来なくなります。

エンジン稼働中でも各種設定変更が出来る様に設計しておりますが、エラー防止の為に可能な限りエンジン停止中に操作を行って下さい。



**警告**

大変危険ですので、走行中は絶対に設定変更作業を行わないで下さい。

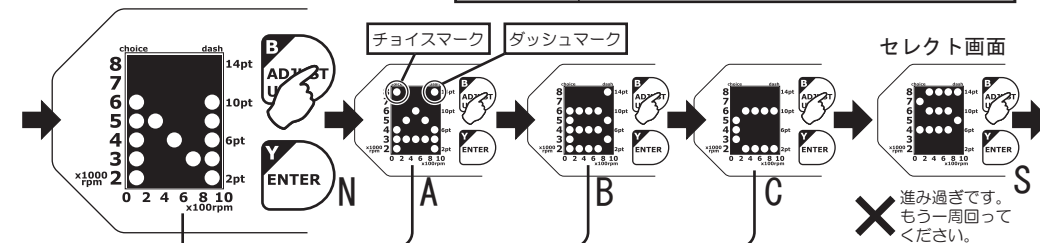


## ⑤-2 セッティング画面

データのセッティング変更を行います。

①BボタンでN・A・B・C、4つの中からセッティングしたいデータを選択し、Yボタンで編集画面に入ります。

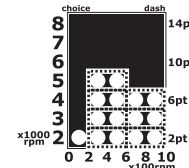
|         |                         |
|---------|-------------------------|
| チョイスマーク | 現在このデータを、エンジン作動用に選択している |
| ダッシュマーク | 出荷データにセッティング変更を加えている    |



## 増量ポイント (pt) 数について

調整について設定値Optがノーマル噴射量で、最大設定値は14ptとなります。(1ptでインジェクターへの噴射時間を約1万分の1秒延長します。)

LED2個1組で1ptとなります。  
右図は7ptを表示しています。  
14ptを超えるとOptに戻ります。



## MEMO

出荷データに変更を加えている部分がどの回転域を確認する事が出来ます。

**ダッシュマーク** 出荷データにセッティング変更を加えている場合に点灯

**このデータはどこかに変更を加えています。**

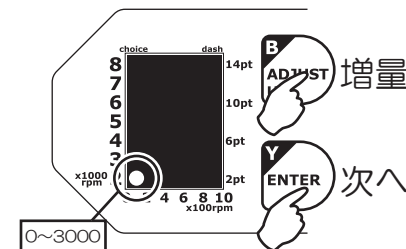
**点滅!** 変更が加えられている回転域を表示している時だけ、左端の回転域マークが点滅します。この時にBボタンを何度か押し、標準に戻った時は点滅は止まります。

**6000~7000** 変更のある回転域だけ点滅

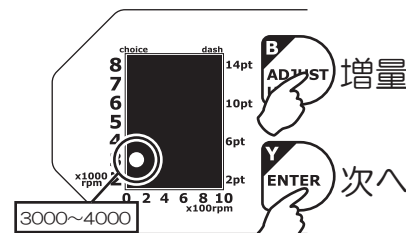
**“作動用”に選ばれていないデータを変更しても、実際の噴射量には反映されません。**

作動用データの選択は[⑤-3 セレクト画面]で行います。

②まず、0rpm~3000rpmの調整



③3000rpm~4000rpmの調整



④4000rpm~5000rpmの調整



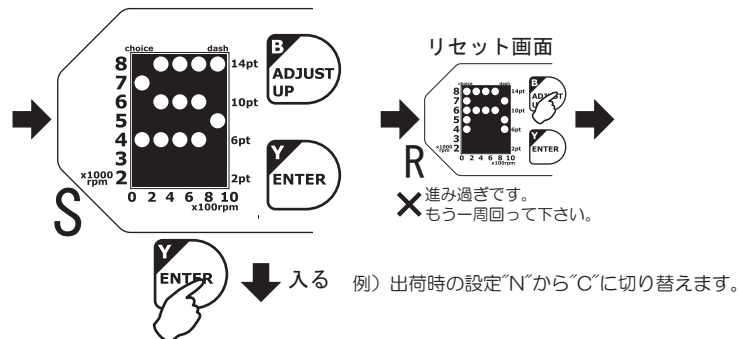
⑧8000rpm~9000rpmの調整



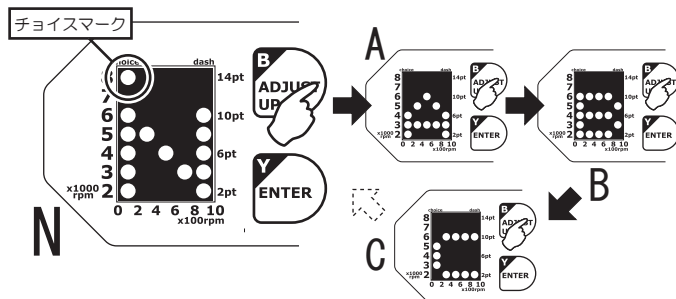
①へ戻ります。

### ⑤-3 セレクト画面 4つデータの中から作動用データの選択を行います。

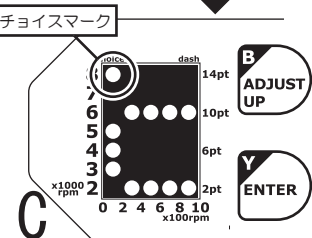
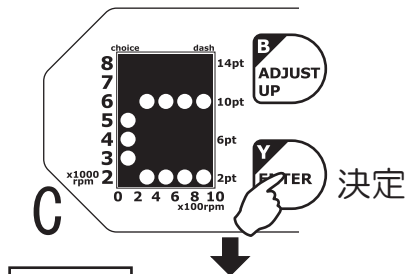
①Bボタンを5回押すと“S”セレクト画面に進み、Yボタンで選択画面に入ります。



②最初に現在使用中の作動用データが表示されます。Bボタンで使用したいデータを選択します。



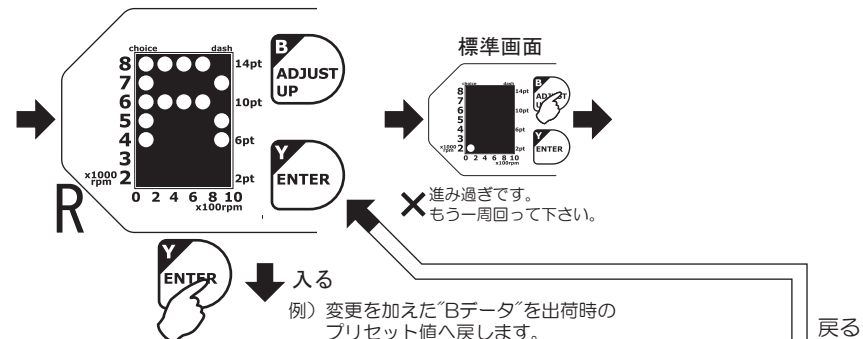
③使用したいデータのところで、Yボタンを押すと決定になります。



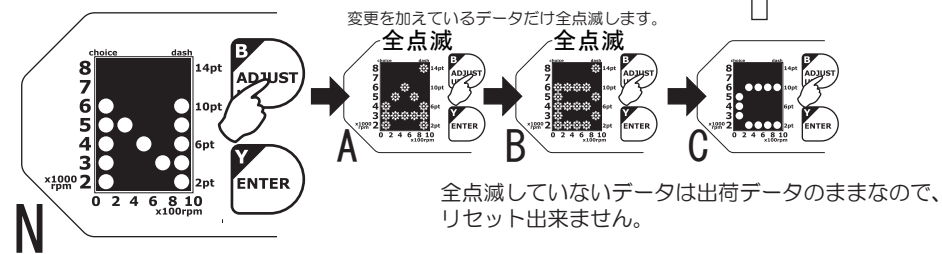
チョイスマークが約1秒間点灯した後、標準画面に戻ります。

### ⑤-4 リセット画面 4つデータを出荷時のプリセット値へ戻します。

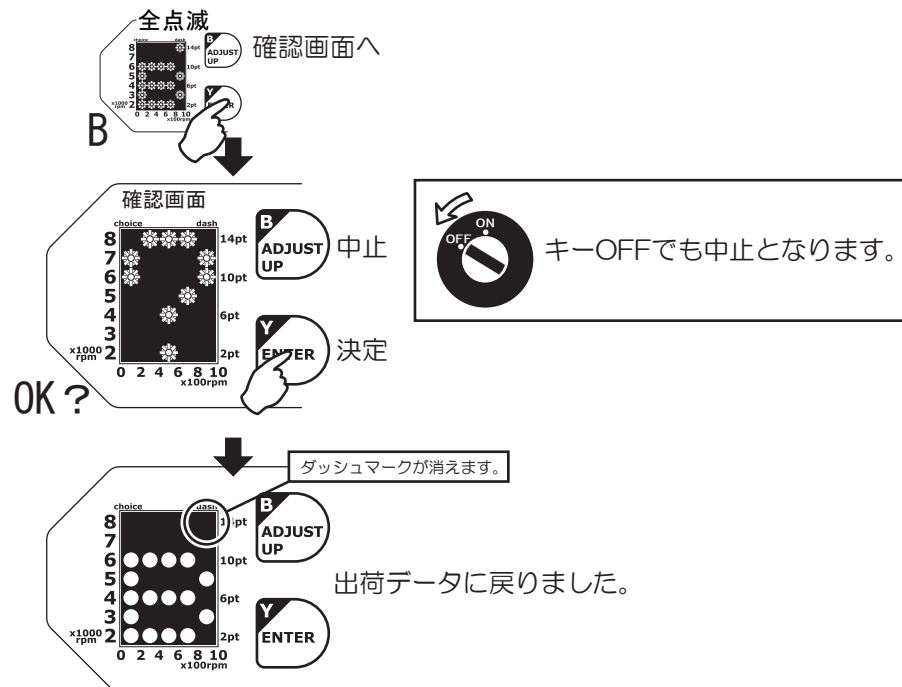
①Bボタンを6回押すと“R”リセット画面に進み、Yボタンでリセットデータ選択画面に入ります。



②Bボタンで初期化したいデータを選択します。



③初期化したいデータのところで、Yボタンを押すと確認画面に進みます。

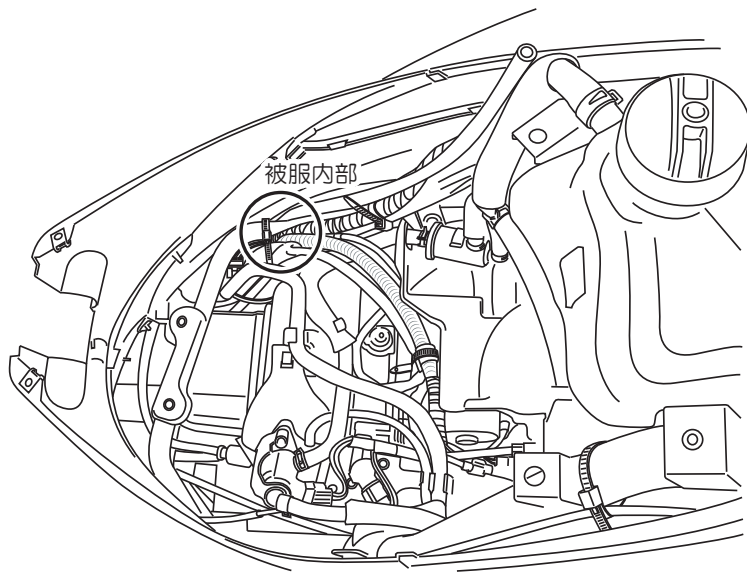






## ⑦の続き

### トランクボックス下部での接続



同じ配線色であれば、車体のどこから分岐接続しても構いません。  
写真内「○」の辺りですべての配線の取り出しが可能です。  
メットインBOXに適度な穴を開け、FIコンの配線を通す事でBOX内にコントローラーを設置出来ます。

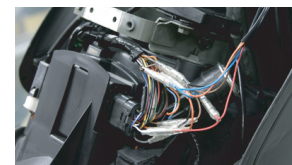
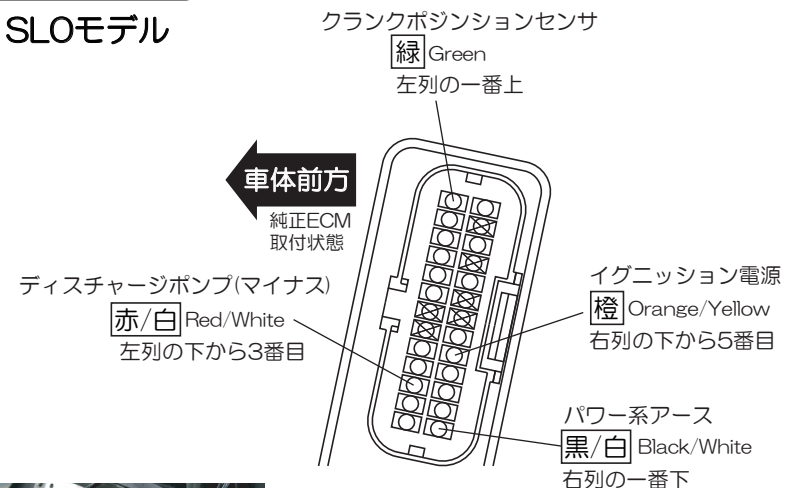
#### FIコン バイク側

|            |            |                                        |
|------------|------------|----------------------------------------|
| <b>橙</b>   | <b>橙/黒</b> | イグニッション電源（キーONのDC12V）。                 |
| <b>黒</b>   | <b>黒/白</b> | パワー系アース配線。                             |
| <b>茶</b>   | <b>緑</b>   | クランクポジションセンサー配線。                       |
| <b>赤 青</b> | <b>赤/白</b> | ディスチャージポンプ(マイナス)配線。ポンプに接続している2本の配線の片方。 |

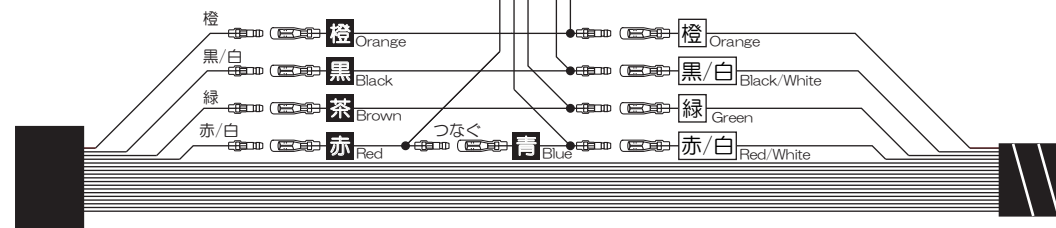
## ⑦の続き

### ECM部での接続

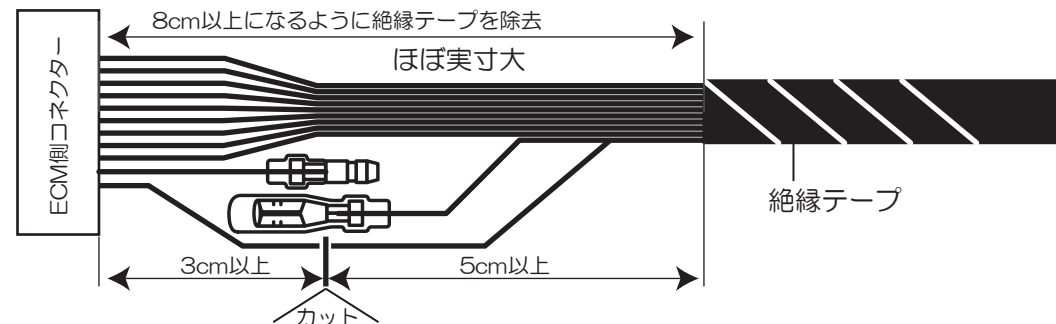
#### SLOモデル



2Pコネクター  
3Pコネクター

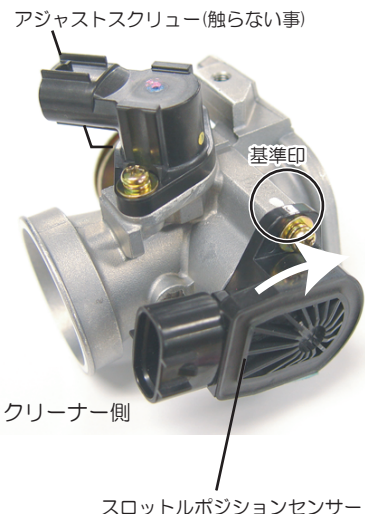


**アドバイス** 車体側にメスギボシ、ECMコネクター側にオスギボシを取り付けて下さい。  
メスギボシカバーは長いので、メスギボシ取付作業するには5cm以上のコードが必要です。



## ⑧トラブル

### 頻繁にエンストする



0~3000rpmのセッティング値が薄い可能性があります。  
ポイント数を増やしてみてください。

下の説明を参考にスロットルポジションセンサーの微調整を試して下さい。

#### ●調整方法のアドバイス

- 調整はセンタースタンドを使用した状態で行います。
- タコメーターを取り付け、エンジン回転数を確認しながら行います。
- 回転数の確認は十分暖機してから行って下さい。
- アイドリング回転数は自動調整で、1600rpm前後です。
- アジャストスクリューは基本的に触りません。

- 空ぶかし時はリアタイヤが回転し大変危険ですので、周囲の安全に十分注意し行って下さい。
- スロットルポジションセンサーの角度調整についてエンジン高温時はヤケドの危険がありますので行わないで下さい。

①4000rpmぐらいまで回転を上げ、リアブレーキをかけるのと同時にスロットルを閉じ、一気に回転数を落とします。  
この時、標準アイドリング回転数以下に一瞬落ちますので、最低回転数をタコメーターで確認して下さい。

②800rpm近くまで落ちる場合は、エンストし易い状態です。  
スロットルポジションセンサーを車体進行方向に少し(基準印が0.5mmずれるぐらい)傾けて、もう一度最低回転数を確認します。  
最低回転数が約1100rpm以上になるように、この調整を繰り返して下さい。

電源が入るが、  
燃料調整が効かない

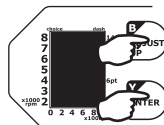
2本サブコードの内、パルス・ポンプ側の3Pコネクタ(茶)が抜けてしまっていないか点検して下さい。  
エンジンは始動しますが、調整は全く効いていません。  
パルスを読み込んでいないので、ドットLEDタコも動きません。

電源が入るが、ドット  
LEDタコが動かない

## オールリセット方法

各種設定の変更中に電源をOFFにしたなどでデータ更新エラーが発生し、正しくデータが書き込めなかった場合、本体が正常に作動出来なくなってしまう可能性があります。  
この様な場合、オールリセット(設定を出荷状態に戻す)を試して下さい。

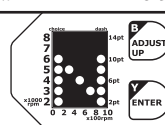
初期設定はすべてのデータが出荷時セッティングに戻り、選択データは“O・N”になります。



① Yボタン、Bボタン両方を押したまま、電源をONして下さい。



② 電源ON後、5秒以上経ってから指を離して下さい。



③ 指を離すと、設定自動確認が始まります。